

国語科学習指導案

日 時	平成29年2月14日（火曜日） 3限		指導者	池邊 良介
対 象	杵築高等学校 普通科 1年4組（男子22名 女子19名／計41名）			
1. 単 元 名	表現に即して歌物語の世界を豊かに読み味わう。			
2. 単 元 目 標	○作品世界を読み味わい、社会や生活、人生について深く考えようとする。 【関心・意欲・態度】 ○文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わう。 【読む能力】 C読むこと(1)ウ ○文語のきまりや和歌における表現の特色を理解する。 【知識・理解】 [伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項]ア(イ)、イ(ア)			
3. 取り上げる言語活動	ペアによる話し合いをもとに、比べ読みを利用した読み深めを行う。			
4. 題材（学習材）	「姨捨」（『大和物語』）			
5. 単元・学習材設定の理由	(1)学習者観：授業に対しては積極的な姿勢で取り組み、活発に意見を出そうとする雰囲気がある。高校入学以来、説話文学・随筆・歌物語（『伊勢物語』）に触れてきたが、その中で表現に即した登場人物の心情の把握や、現代社会への典型化について学んできた。表現を手がかりに深い読みに到達し、作品世界を豊かに味わうことが現在の課題である。 (2)指導観：文学作品の世界を深く味わうには、表現に即した丁寧な読み取りが必要であり、そのための一つの切り口になるのが登場人物の視点である。本単元では、他作品との比べ読みや、ペアワークを取り入れ、登場人物の視点をふまえて思考力や想像力を駆使して作品を読み深めることで、その世界を豊かに味わうことができるようにする。 (3)学習材観：『大和物語』は平安前期成立の歌物語だが、『伊勢物語』とは対照的に世俗を中心とする哀切に満ちた題材が多い。「姨捨」は、いわゆる棄老伝説として『今昔物語集』や『俊頼髓脳』、謡曲、現代映画等で伝えられており、学習者の中にも知っている者はいる。作品全体を通して表現の粗さはあるが、それが作品のいわゆる「空所」として機能しており、叙述の視点をおさえることで、読者の思考力と想像力によってより深い読みに到達することが可能である。扱うテーマも時代を超えて考えさせられるものであり、現代社会が直面する問題として訴えかける力を持つ作品である。			
6. 具体的な評価規準	関心・意欲・態度		読む能力	
	作品世界を読み味わい、現代に引き寄せながら、社会や生活、人生について深く考えようとしている。		文章に描かれた人物、情景、心情を登場人物の視点や表現に即して豊かに読み取っている。	
		知識・理解		助動詞を中心とする文語のきまりや和歌における表現の特色を理解している。
7. 指導と評価の計画	具体的な評価規準と評価方法		主な学習活動	
次	1次	【評価規準】 ○本文を正しく音読することができる。 ○登場人物と事件の概要について捉えることができる。（読む能力） 【評価方法】行動の確認		○本文の音読をする。 ○登場人物とその行動を捉える。
	2次（本時）	【評価規準】 ○文法事項や和歌の表現の特色をふまえた的確な現代語訳ができる。（知識・理解） ○表現に即して人物、情景、心情を読み取ることができる。（読む能力） 【評価方法】行動の確認・記述の分析		○正確に現代語訳を行う。 ○「男」が「姨」を捨てるまで、「姨」を再び迎えに行くまでの経緯と心情の変化を理解する。
		【評価規準】 ○社会や生活・人生について深く考えよ		○登場人物になりきって手紙の形で思いを伝え合う。

3 次	うとしている。（関心・意欲・態度） ○話の内容をふまえた手紙を書くことができる。（書くこと） 【評価方法】記述の分析	
-----	--	--

本 時 案

本 時 の 目 標	○「男」の視点に立った表現をおさえることで、「姨」を迎えに行くまでの「男」の心情をとらえる。（読む能力）
-----------	--

展 開

学 習 活 動	指 導 内 容	時 間	評価規準・方法など
1. 前時の学習内容と本時の目標を確認する。	○「姨」を迎えに行くまでの「男」の心情をとらえることを確認させる。	1	
2. 後半部を音読する。	○話の概要を思い出しながら、後半部の音読をするよう指示する。（個人）	2	「行動の確認」
3. 話の概要を確認する。	○後半部の話の概要を伝えさせる。（ペア）	2	「行動の確認」
4. 「やや。」の後に続く「姨」の言葉を想像し、「姨」を捨てた後の「男」の心情を理解する。	○「やや。」の後に「姨」が言おうとした言葉は何だろうか？【主発問①】 ・話の場面・状況をおさえたうえで、否定発問を行い、考えを深めさせる。 ・「男」の視点からの表現であることをおさえ、「逃ぐ」「腹立つ」「悲し」に表れる心情を理解させる。（ペア→一斉）	2 5	【目標】 ・予習課題 ・「姨」の言葉と「男」の視点をふまえた心情を関連づけてとらえることができるか。 「行動の確認」 「行動の分析」
5. 「わが心…」の歌に見られる「男」の心情を理解する。	○「男」は「姨捨山に照る月」を見るとどうして心が慰められないのか？【主発問②】 ・「ながむるに…」の歌との比較を通して、「月」と「慰めかねつ」の心情の関係について読み深めさせる。 ・「男」が見ていたものは何かについて考えさせる。 ・人事を超えた存在である「月」が人の行いの醜さを照らし出すということを理解させる。（個人→ペア→一斉）	1 7	【目標】 ・補助資料 ・二つの歌を比較しながら「男」の心情を捉えることができるか。 「行動の分析」 「記述の分析」
6. 本時の内容を振り返り、登場人物の心情の読み取り方を確認する。	○登場人物の視点や表現に即した読み取りをすることで豊かな深い読みに到達することをメタ認知させる。（ペア→一斉）	2	「行動の分析」

7. 次時の学習内容を知る。	○登場人物になりきって、その視点から思いを手紙の形で伝え合うことを告げる。	1	
-----------------------	--	----------	--